

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 壱番館 )

事業所番号	O61700284		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	山形県東根市大字野田1924番地		
自己評価作成日	平成 25年 8月 12日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、入居者様・ご家族様との信頼関係を大切に、コミュニケーションを多く持ちながら、家庭的な雰囲気のもとで、安心して生活していただけるよう努めています。また、入居者様一人一人の有する能力を発揮・維持できるような場面作りを心掛けながら、日々携っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 25年 9月 12日	評価結果決定日	平成25年 9月 30日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年目を迎える本事業所は、90歳を超える利用者が半数近くを占め、開設当初からの利用者も年々介護度が高くなってきているが、管理者及び職員は認知症介護に精通しており、適切なケアを提供することで、利用者は自分らしく穏やかに暮らしている。また地域や家族との繋がりを大切にされた運営を進めており、家族の要望を受け事業所の活動内容や利用者の暮らしぶりをホームページで紹介することで、遠方に住む家族に活用され、安心につながっている。更に、グループホームの理念及び職員から募集した活動標語を事務所内に掲示し、職員の意識を高める取り組みを実践しており、これまでの経験を活かしながら、さらなる発展が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にグループホームとしての役割を反映した独自の理念がある。各ユニットの玄関や事務所内に掲示したり、スタッフ一人ひとりが常に身につけるネームプレートに入れて持ち歩き、理念に対する意識を高めるようにしている。	法人の理念を基にしたグループホーム独自の理念をつくり玄関などに掲示するほか、ネームプレートに入れて持ち歩き、職員の意識の高揚に努め、理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する小学校の運動会や相撲大会を見学したり、地区行事のスポーツフェスティバルや文化祭に参加している。また、施設行事の夏祭りや文化祭には地区の方を招待し交流を図っている。さらに、地区と災害時相互応援協力協定を結び、協力関係を構築している。	小学校、保育園が隣接しており、運動会見学など学校行事を通して子供達と触れあっている。地区行事へも参加しており、毎年文化祭には利用者の作品を出展している。また、事業所の夏祭りには地区の人を招待するなど、地域との相互交流を積極的に推進している。近隣から野菜や花の差し入れなどもあり、交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めていただけるよう努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者様やご家族様、行政や地区の代表者の方に、様々な意見をいただきながら、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。プロジェクタを使用し、事業所の実態や外部評価・目標などについて報告し、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。また、利用者の暮らしぶりをホームページで紹介して欲しいという、遠方に住む家族の要望を実現し、喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者に運営推進会議の委員になっていただいております。定期的な情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいます。	包括主催の「サービス事業所調整連絡会議」に行政も参加しており、定期的な情報交換を行っている。また、行政には運営推進会議に参加してもらい、事業所の現状と課題について報告している。生活保護や介護認定調査等の個別案件についてはその都度情報交換を行い、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外出出来るようにしている。また、身体拘束についての研修会を開催したり、委員会を設置し身体拘束についての正しい理解に努めている。	身体拘束ゼロマニュアルを作成し、職員に徹底するとともに、年1回研修会を開催して理解に努めている。職員は禁止行為を理解しており、身体拘束につながる危険行為(転倒、離脱など)が予見される場合は、付き添いや見守りなどを行い、施錠せず身体拘束をしない工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の開催や、委員会活動を通じて定期的に話し合いの機会を持ち、啓蒙に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要としている事例がなく、外部研修には参加しているが、制度の詳細について職員全体の関心と理解は低い。施設内研修を充実させ理解を深める機会の確保が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ分かりやすく説明している。同意の上で契約の締結、解除を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱を設置している。その他にも面会時や運営推進会議時など随時、意見や要望を伺っている。また、年に1回利用者様やご家族様にアンケートを実施している。いただいた意見等については、その都度、スタッフ全員が共有し、解決にむけた検討を行っている。	意見箱を設置しているほか、面会時等に家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。年1回、利用者や家族にアンケートを実施し、集計結果を貼り出し、職員で内容を検討し、運営に反映させている。また3ヶ月に1回、家族に利用者の写真を添えた手紙を出している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議とユニット会を開催し、職員の意見が反映する体制をつくり、話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体で働きやすい職場環境の構築に取り組んでいる。(男女生き生き、子育て応援宣言企業として認定)また、年2回の評価制度を実施したり、研修会の参加費や資格取得費用についても、一部事業所で負担している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全体研修や部門毎に年間計画を立て、研修会を設けている。また、外部の研修会にも参加しやすいよう配慮している。	隣接の老健と合同の研修委員会が年間計画を立て、全体研修と部門研修を実施している。外部研修は職員に広報し、受講希望を参考に、管理者が適任者を派遣している。また、新人OJTは教育プログラムに沿って進められ、3ヶ月毎に目標達成度を記録・評価するという取り組みが行われている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協会に加入して定期的な研修会や交換研修に参加し、交流を図りながら、意見交換を行っている。参加後は報告書を通して内容を全スタッフが共有し、サービスの向上に繋がられるよう努めている。	県協会主催の交換研修や法人内事業所同士の研修に参加し、交流を図っている。交換研修では介護研究の成果を発表し、意見交換を行っている。参加後は報告書を作成し、内部研修会で発表を行って情報を共有し、サービスの向上に活かしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に事前面談を行い、ご本人様のニーズを把握するよう努めている。また、スタッフ間で情報を共有した上で、対応し不安の軽減を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始までの間に、これまでの経緯や、不安、要望について十分に話を聞く機会を設け、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の状況を把握し、意向を確認しながら、適切な支援を提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の能力を見極め、声掛けしながら様々な場面で一緒に作業を行っている。調理の仕方(切り方・味付け・作り方)や、昔からの慣わし事などは入居者様から学ぶことも多い。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態や思いを伝えながら、ご家族様と一緒に考え、ご本人様を共に支えていけるよう努めている。面会時に積極的にコミュニケーションを図ったり、定期的に写真入りのお便りをお渡しし、ホームでの生活の様子が分かりやすいように情報提供している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や知人とも継続的に交流がもてるよう、ご家族様の協力を得て外出したり、面会の依頼や連絡を取り持つなどの支援を行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者様同士の関係性を把握し、トラブルにならないよう過ごす場所や座席に配慮している。お茶会など皆で過ごす際は、スタッフも一緒に会話に加わりながら、入居者様同士の関係がうまくいくよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族様からの連絡に応じて相談対応を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通し、言葉や表情からご本人様の希望や意向を汲み取るよう努めている。困難な場合はご家族様より今までの生活の様子などを聞き参考にしている。	入居前に家族から利用者の生活の様子を聞き取りして生活歴や希望を把握し、入居後は日常会話やしぐさから本人の思いを汲み取るよう努め、その気づきを連絡ノートに記載して職員間で共有し、話し合いをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や周りの方から情報を収集したり、これまで関わってきたケアマネージャーと情報交換して生活の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の生活習慣を理解するとともに、日々の生活の中での気づきが多く得られるよう観察し、スタッフ間で情報共有するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回全スタッフ参加がカンファレンスを行っている。また、3ヶ月に1回モニタリングを行い、その時に応じた介護計画を作成するよう努めている。面会時にご家族の意向を確認し介護計画に反映させている。	介護計画は利用者や家族の意向を聞き取りして作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、ユニット会議で意見を出し合い、6ヶ月毎に見直しを行いながら利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、前回の目標達成計画に掲げた利用者や家族の意見の反映については介護計画書及び介護記録などに記載し実行されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活の様子を記録し、全職員が情報を共有できるようになっている。介護計画の項目ごとに状況を記録し、カンファレンスやモニタリング等、計画を見直す際に役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じてボランティアの受け入れを行ったり、年2回消防署や地域の方にも協力していただき、避難訓練を実施している。近くに商店街はないが、小学校や保育園があり定期的に交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の医療が受けられるように、ご家族様と協力しながら通院介助を行っている。また、通院が困難な方については、母体の医療機関からの往診や、近隣の往診対応が可能な医療機関にお願いし、協力体制を築いている。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。受診支援は家族と協力しながら職員も同行する機会が多い。介護度が高くなっている利用者も多く、往診対応も行っている。受診結果は口頭で家族に伝え、それを記録に残し、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内にある介護保険施設の看護師と連携し、24時間必要な援助が受けられる体制を確保している。定期的な訪問以外でも毎日朝礼時の申し送りを行い、日常的な情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者様の具体的な情報を提供し、入院中も可能な限り面会に行き、状態の把握に努めている。退院後の支援方法についても情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を定め、ご家族様から同意をもらっている。状態の変化があるごとに、ご本人様の思いやご家族様の意向を確認しながら、医療関係者と連携を図り、今後について検討するようにしている。	契約時に家族に重度化した場合の対応指針について説明し、同意を得ている。重度化した場合は、その都度家族と関係者が話し合い、方針を確認し情報を共有しながら対応している。また看取りも行っており、これまで1例の経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に研修会を開催したり、看護師からマンツーマンで指導してもらう機会を設けて技術の習得に努めている。しかし、スタッフ全員が適切な実践力を身につけているとはいえない為、今後も継続的に学習する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域の代表者の方からも参加していただき、施設の構造や入居者様の状態について理解を深めていただいている、その他にも研修会を行い、万が一の災害に備えマニュアルの確認を行っている。	年2回、夜間、地震、火災などを想定した訓練を実施しており、春は地区消防団の参加があり、秋は消防署の参加がある。防災グッズの整備や非常食の備蓄にも取り組んでいる。また、地域と「災害時相互応援協力協定」を結び、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した言葉掛けや対応の重要性を理解日々ケアにあたっている。また、プライバシーの保護についても研修会を開催し理解に努めている。	接遇委員会が中心になり、職員同士が声掛けを行い、啓発を行っている。特に、入浴や排泄の際の言葉遣いに注意し、利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。また、研修会を通してプライバシーの保護に関する理解を深める努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、献立や外出場所などを自己決定できる場面を作りながら、本人の思いや希望を表すことができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人のペースに合わせて生活できるよう支援している。希望があれば可能な範囲で意向に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には馴染みの美容室に行けるよう支援している。また、自尊心に配慮しさりげないフォローを心掛け介助にあたっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを分担し声掛けしながら、一緒に食事の準備や片付けを行っている。また、毎回職員も一緒に食事をして、会話しながら楽しく食事できるように努めている。時々、外食をし好きなメニューを選んでもらっている。	食材の買い出し、盛り付け、後片付けなどに利用者にも参加してもらい、職員が同じ食卓を囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。また、利用者の経験を活かした笹巻作りやおやつ作りをしたり、利用者の誕生日に外食に出掛けたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人一人の食事・水分摂取量を記録しスタッフ全員が把握できるようにしている。咀嚼・嚥下の状態に応じ食事内容を変更したり、水分が不足しないよう、内容を工夫し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、そばで見守り必要に応じて介助している。義歯は夜間消毒洗浄している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のサインを観察しながら、個々に合わせてトイレの声掛けや誘導を行っている。失禁時も自尊心に配慮した介助を行うよう心掛けている。	利用者の排泄パターンやしぐさから適時声掛けを行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。失禁時は言葉遣いに注意し、人目につかない場所でケアするなど利用者が傷つかないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修会等で便秘のリスクについて取り上げて理解に努めると同時に、献立に配慮したり、多めの水分補給を心掛けている。また、適度な運動の機会を設け、便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入りたい方、そうでない方、入居者様それぞれの希望に合わせて、入浴して頂いている。入浴拒否の強い方でも、最低週2回は入浴を実施できるよう支援している。年数回だが、公衆浴場に出掛け入浴を楽しんでいる。	利用者の希望に合わせて、入浴時間や入浴回数を設定している。入浴を嫌がる利用者には時間を置いてから声掛けしたり、スタッフが交代したりして、気持ちよく入浴出来るよう支援している。また、参番館にはリフト浴が備えられ、身体機能が低下した利用者でも安全に入浴ができるよう整えられている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握しながら、居心地よく過ごせるよう空調の管理や場所を作り、安眠や休息を支援している。眠れない時は温かい飲み物を提供し、ゆっくり話を傾聴して、安心感が得られるよう対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報をファイルにまとめ、管理している。変更等あった際も、全職員が把握し、服薬後の状態変化について観察し、医師へ状態を報告している。服薬ミスがないようにチェック表を用いて対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や家事活動等でそれぞれの役割を發揮できる場面作りに務めている。また、買い物やドライブなどの外出で気分転換をしながら楽しみの支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は好きな時に、外へ出て行ける環境になっている。希望時には、散歩にも出掛けており、必要に応じて、付き添いや遠方からの見守りを行っている。また、1日おきに食材の買い物に行ったり、定期的に外出レクを企画し、出掛ける機会を作っている。	利用者に花壇の草取りや散歩を兼ねたごみ捨てなどに同行してもらい、外出の機会を創出している。天気がよい時には、利用者や相談し、デイケアの車を使用して近隣観光スポットなどへの外出を楽しんでいる。また、家族に協力してもらい、墓参りや親戚訪問などが出来るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人でお金を所持している方はいないが、できる方には、買い物や外出した際に、本人が支払う場面をつくるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて電話を利用したり、葉書等が出せるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の管理を行い、居心地よく過ごせるよう配慮をしている。また、四季を感じられるよう装飾品を工夫したり、一部の空間に行事や外出した際の写真を飾り、思い出しながら会話のきっかけになるようにしている。	吹き抜けから明るい陽射しが差し込む共有空間は清潔に管理されている。毎日温度・湿度管理が行われ、快適に過ごせる環境が維持されている。また、会話のきっかけになるよう行事の写真をリビングや通路に飾ったり、玄関前の花壇に四季の草花を植えたりし、利用者が季節感を感じ、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に和室やテラスがあり、椅子、ベンチを置いて、一人一人が好きな場所で過ごす事ができる環境を工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力のもと、馴染みの物を自宅から持ってきていただき、安心して過ごせる環境を工夫している。	家族にも協力してもらい、思い出の詰まった鏡台などの調度品や家族の写真などを持ち込み、自分の好みに合った飾り付けを行い、利用者が居心地よく、安心して過ごせるよう工夫されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂等、手すりが設置しており、行動する際、出来るだけ自力で行えるよう声掛けし、見守りを行っている。また、場所の確認がしやすいように名前を貼っている。		